

提言

閉会中の 所管事務調査

常任委員会が、所管する事務について議会閉会中に調査を行いました。
今回は、特色ある観光振興や文化財に対する取り組み、市道の整備と管理について調査し、当局に提言をしました。

おもてなしの観光地づくりを

総務常任委員会

本市は、平成20年度、123万人の観光客が訪れたが、平和を語り継ぐ都市や日本有数の食料供給基地としての特性を生かしつつ、新たな観光振興の対策が求められています。このことから、総務常任委員会は、特色を生かした観光振興について、宮城県大崎市と福島県喜多方市で調査を行いました。

大崎市は、年間160万人の観光客が訪れる鳴子温泉郷を核と位置づけ既存の観光資源を有効に連携・活用し、観光客のニーズに対応する魅力的な観光地づくりを目指している。

喜多方市は、文化財・蔵などの歴史を感じさせる建物が多く残されている。

総務常任委員会は、おもてなしの観光地づくりを、知名度の高いラーメンや温泉施設なども多く年間170万人の観光客が訪れている。市では、「おもてなし係」を新設し、旅行の相

談や情報の紹介を行う観光コンシェルジュの養成やおもてなし向上セミナーの開催、おもてなし花小径の創出などに取り組んでいる。また、無いものを探すのではなく、足元にある資源を観光に結びつけている。



江戸時代の蔵が多く残されている喜多方市



感覚ミュージアムで説明を受ける委員（大崎市）

提言

- 平和会館や武家屋敷など「もの」に頼る誘客だけでなく「人」や「心」をつなぐ、おもてなしにあふれた観光地づくりを進めること。
- 市長のリーダーシップで、本市の広域的な観光ルートの形成を図り、農業と自然を生かしたイベントの開催や、観光開発に取り組むこと。
- 既存の観光地と農村漁村のグリーン・ツーリズムが連携し、新たな魅力ある観光をつくり出すこと。
- 市民、企業、団体が協働して観光振興に取り組めるよう、中核となる観光協会などの機能強化を図ること。

南九州市の道筋を求めて

か 活

文化財の保存・伝承を図れ

文教厚生常任委員会

文教厚生常任委員会は、文化財に対する取り組みと活用について、岩手県平泉町と青森県平川市で調査を行いました。

平泉町は、国宝中尊寺など8つの史跡名勝があり、発掘調査の現地説明会や町内遺跡報告会など開催し普及活動に努めている。

町内小・中学校は、主要な史跡地において発掘体験学習を実施している。中でも、平泉中学校においては「郷土・平泉学」の名のもとに、発掘体験、平泉を学ぶ遠足、ジュニアボランティアガイド研修や平泉学検定などの実施に取り組んでいる。

平川市は、藤原氏書院庭園など127件の文化財があり、国登録有形文化財のリング生産用土蔵造りの農家蔵は、農村景観百選、かおり風景百選に指定されている。

文化財の保存・継承については、保存団体に対する助成として補助金を交付し、伝承のために文化庁の地域伝統文化伝承事業を導入している。

提 言

- 本市の貴重な文化財を子供たちへの学習教材として活用すること。
- 保存会に財政的な支援を行い、文化財の保存伝承に努めること。
- 文化財めぐりにコミュニティバス活用や近隣市との連携により交流人口の増加を図ること。
- 本市の特性を生かし文化財と観光の融合を図り、経済効果を高めること。



南九州市内文化財めぐり

地域の実情に合った整備計画を

産業建設常任委員会

産業建設常任委員会は、道路整備と管理について三重県亀山市、愛知県弥富市、岐阜県海津市で調査を行いました。

亀山市は、維持補修について市が原材料を支給し、住民が補修を行う制度を取り入れている。

弥富市は、道路の維持修繕について、年度を前後期に分けて業者と委託契約している。

海津市は、道路整備について幹線道路及び市内巡回バスルートを優先し、自治会要望箇所については、採択基準及び積算方針を設け整備している。維持管理は、職員で対応しポケット補修などを行っている。

提 言

- 道路整備計画は、現況の正確な把握と住民の意向を取り入れ、地域の実情に合った整備計画とすること。
- コミュニティバスの路線については、通行に支障がないよう早急に整備すること。
- 維持補修に重点をおいた道路整備に努めること。
- 道路愛護作業については、市民のボランティアによる取り組みを推進し、高齢化などにより作業困難な地域は、対策を検討すること。



工事が進められる市道補装補修工事